



TITLE:

京大広報 No. 513

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 513. 京大広報 1997, 513: 243-257

ISSUE DATE:

1997-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209235>

RIGHT:



京大広報

No. 513

1997. 5

目次

〈大学の動き〉

部局長の交替等244

〈部局の動き〉

総合情報メディアセンターの設置244

〈日誌〉245

〈栄誉〉

中西重忠教授が恩賜賞・日本学士院賞を、
常脇恒一郎名誉教授が日本学士院賞を受賞 ...246

〈紹介〉

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー247

〈随想〉

黒潮と係わりがあった江戸時代の京都人
名誉教授 川合 英夫250

〈洛書〉

眼が疲れませんか？ 伊原 康隆251

〈資料〉

平成9年度入学試験諸統計252

〈公開講座〉

工学部公開講座

「新素材—未来をひらく新しい工業材料—」...256

〈お知らせ〉

医学部附属病院でボランティア募集中257



大学の動き

部局長の交替等

防災研究所長

高橋 保防災研究所長の任期満了に伴い、その後任として今本博健防災研究所附属災害観測実験センター教授（災害水象観測実験研究領域担当）が5月1日防災研究所長に任命された。

任期は平成11年4月30日までである。



今本博健教授

部局の動き

総合情報メディアセンターの設置

平成9年4月1日、京都大学総合情報メディアセンターが設置され、午後1時30分より、井村総長、長尾工学研究科長、黒川事務局長ほか、設置に関わった関係者およびセンター教職員の出席のもとに、銘標の設置式が行われた。

本センターは、21世紀の高度情報社会に向けた国際人の養成と、大学教育の発展に寄与することを目的としており、昭和53（1978）年に設置された情報処理教育センターと昭和63（1988）年に設置された工学部附属高度情報開発実験施設の両者を廃止・転換すると共に拡大したものである。

来る高度情報化社会は、コンピュータと学内・国内だけでなく国際的なネットワークとの融合によって国際化が進むことは明白であり、これに対応した独創性豊かで広い視野を持った国際人や幅広い高度な専門知識を持った創造性豊かな人材が求められている。本学において、このような人材の育成を目指している各部局の高等教育を広範囲な情報メディア環境の提供により支援するものである。

具体的な事業としては、情報処理教育環境の提供、



発信型語学教育環境の提供、教養教育・専門教育におけるメディアを利用した教材作成とその支援、遠隔講義・会議の支援およびオープンスペースラボでの学習環境の提供である。センターの事業とKUINSを全面的に活用して行うと共に、研究開発の成果を踏まえた最新情報メディア環境へ還元して行く。

本センターには次の教育支援部門と開発支援部門を置き、両者の有機的な連携した活動により前述のセンター事業を行う。

教育支援部門	情報処理教育担当 語学教育担当	全学の情報処理教育・語学教育への支援 教材の作成支援 利用解説書の編集 教材・ソフトウェア評価
開発支援部門	マルチメディア担当 ネットワーク・遠隔講義担当	マルチメディアを活用した情報処理・語学教育用ソフトウェア 画像・音声理解 仮想実験・可視化システム 遠隔講義システムに関する研究開発

当面は、旧情報処理教育センターと旧工学部附属高度情報開発実験施設の建物と計算機設備を引き続き運用するが、平成10年2月には教育用計算機システムの更新を行う。

したがって、平成10年度から、主センターとオープンスペースラボ、各部局のサテライトに合計1,200台のワークステーションとパーソナルコンピュータによる新しいマルチメディア計算機環境を提供し利用に供する。センターでは、センター内の設

備による情報処理教育／言語教育、一方サテライトにおいては各部局における専門教育に利用できる環境に整備する。

なお、本センターの独立新棟を平成12年度に竣工できるよう計画中で、学内関係部署と協議を進めているが、それまでの期間、当初目指したセンターの事業の全てが十分に実施できるとは限らないことをご理解いただきたい。

(総合情報メディアセンター)

日誌

1997年3月1日～3月31日

- | | | | |
|------|--|-----|--|
| 3月4日 | 評議会 | 13日 | 入学者選抜学力試験（後期日程試験）
（14日まで） |
| 〳 | 大学院審議会 | 18日 | 評議会 |
| 〳 | 附属図書館商議会 | 19日 | 教育課程委員会 |
| 5日 | 国際交流委員会 | 21日 | 連合王国 経済社会研究評議会 Ronald
Amann副議長他1名来学，総長及び関
係教官と懇談 |
| 〳 | 国際交流会館委員会 | 24日 | 修士学位授与式 |
| 〳 | 環境保全委員会 | 〳 | 博士学位授与式 |
| 10日 | 連合王国 イースト・アングリア大学
Geoffrey Allen総長他1名来学，総長及
び関係教官と懇談 | 25日 | 卒業式 |
| 〳 | 将来構想検討委員会 | 31日 | オーストリア共和国 ウィーン大学
Wolfgang Greisenegger総長他1名来学，
総長及び関係教官と懇談 |
| 11日 | 新キャンパス委員会 | | |
| 〳 | 核燃料物質管理委員会 | | |
| 12日 | 放射性同位元素等管理委員会 | | |
| 〳 | 附属図書館商議会 | | |

荣誉

中西重忠教授が恩賜賞・日本学士院賞を，常脇恒一郎名誉教授が日本学士院賞を受賞

このたび，中西重忠教授が恩賜賞・日本学士院賞を，常脇恒一郎名誉教授が日本学士院賞を，それぞれ受賞されることになった。

受賞式は，7月上旬，日本学士院で行われる予定である。

以下に各氏の略歴，業績等を紹介する。



中西重忠教授は，昭和41年京都大学医学部を卒業，同46年本学大学院医学研究科博士課程を終え，米国国立衛生研究所（NIH）で客員研究員として3年間研究に従事し，同49年本学医学部医化学教室の助教授に採用され，同56年本

学医学部免疫研究施設第2部門の教授となった。平成7年医学部大学院化に伴い，同大学院医学研究科生体情報科学講座教授となり，現在に至る。

同教授の今回の受賞の対象となったのは「神経伝達の分子メカニズムに関する研究」である。脳の種々の機能は，神経伝達物質とその受容体が作用し，神経情報が伝達されることによって引き起こされる。従って神経伝達物質と受容体がどのような分子からなり，どのように制御されているのか，又，それを介した神経伝達が脳機能の発現にどのように関わり，制御しているのかを明らかにすることは，脳研究の中心的な課題である。同教授の研究は神経伝達の機能分子と神経伝達の基本的なメカニズムを明らかにした極めて独創性の高い研究である。

まず第1に，痛みを伝達する神経ペプチド，サブスタンスPとその関連ペプチドの生合成機構の全貌を明らかにし，又神経細胞に特異的なRNAプロセシングによって神経ペプチドの生成が制御されるという新しいメカニズムを示した。第2に，伝達物質の生成機構から受容機構に研究を進め，遺伝子工学と電気生理学を組み合わせた独創的な手法を開発し，サブスタンスPとその関連ペプチドの受容体の実体を明らかにした。この研究はペプチド受容体として初めてその実体を明らかにしたものであり，ペプチドの作用機構の理解を大きく進展させた。第3に，同教授はグルタミン酸受容体の解明に成功した。グルタミン酸は興奮性伝達物質として，記憶，学習等

の高次脳機能を制御し脳神経系において神経伝達の中心的な役割を果たす伝達物質である。同教授はグルタミン酸受容体を分子レベルで明らかにすると共に，本受容体は特徴ある一群の分子種からなるという，神経伝達の機構を知る上で基本となる事実を明らかにした。第4に，グルタミン酸受容体の機能の解析を進めることにより，グルタミン酸受容体を介した光や匂いの外部刺激の識別の分子機構ならびに記憶の獲得の基礎となる神経伝達の可塑性の成立の分子機構を明らかにした。

以上，同教授の研究成果は，神経伝達の基本的なメカニズムと脳神経機能の分子メカニズムを明らかにしたものであり，神経科学や分子生物学はもとより，生化学や生理学等の研究分野にも大きなインパクトを与え，その業績は国際的に高く評価されている。これら一連の研究に対して，昭和58年朝日賞，平成4年上原賞，同7年米国ブリストル・マイヤーズ・スクイブ神経科学賞，同8年慶応医学賞など多数の賞が授与され，又，同7年米国芸術・科学アカデミー外国名誉会員の荣誉を受けた。

（大学院医学研究科）



常脇恒一郎名誉教授は，昭和28年京都大学農学部を卒業，同30年本学大学院農学研究科修士課程を修了，博士課程に進学したが，同年米国カンサス州立大学大学院博士課程に編入学し，同33年同課程を修了し，Ph. D. の学位を取得した。

その後，カナダ国マニトバ大学におけるポストドクトラルフェローを経て同34年国立遺伝学研究所生理遺伝部研究員に採用され，同40年京都大学農学部実験遺伝学講座助教授に配置換えとなり，同41

年同講座の教授となった。平成6年京都大学を停年により退官し、京都大学名誉教授の称号を授与され、同年より福井県立大学生物資源学部教授となり現在に至っている。

同教授の今回の受賞の対象となったのは「コムギの進化に関する比較遺伝学的研究—コムギ属及びエギロプス属の比較遺伝子分析とプラスモン分析」である。コムギの進化、とくにその起源と分化を明らかにするため、コムギ属とそれに近縁なエギロプス属を対象に、広範な比較遺伝子分析とプラスモン分析を行ってきた。因みに、プラスモンとは、細胞質に存在する遺伝子の総称で、核の遺伝子の総称であるゲノムに対比される。

先ず、1955年からの約10年間を中心に行われた比較遺伝子分析においては、パンコムギとその祖先である二粒系コムギ、タルホコムギ及び一粒系コムギの4分類群に並行的に認められる形質変異を支配する遺伝子や雑種致死の原因となる遺伝子について分析し、パンコムギはアジアと欧米の集団に2極分化しており、アジア集団がパンコムギの原型であること、及び、パンコムギの起源地がカスピ海に面したイランの東北部であることを初めて明らかにした。1966年以降は、それまで、進化の体系的研究の対象となり難かったプラスモンの分析を、コムギ属とエギロプス属を対象に進めた。先ず、両属のすべての種のプラスモンをパンコムギに導入し、異種由来のプラスモンとコムギの核ゲノムをもつ多数の細胞質置換コムギを作出した。これらを用いて、コムギの様々な形態的・生理的形質に与えるプラスモンの遺

伝的影響を分析し、両属のプラスモンを15型プラス7亜型に分類・命名した。次いで、細胞質置換コムギより分離した、プラスモン提供親由来の葉緑体とミトコンドリアのDNAを制限酵素分析法によって調べ、その結果に基づいて、プラスモン間の遺伝的距離を推定し、その系統樹を作成した。これら一連の研究から、コムギ・エギロプス両属のほとんどの倍数種の母親と父親が決定された。その過程で、パンコムギは二粒系コムギを母親、タルホコムギを父親に、そして、この二粒系コムギはクサビコムギを母親、一粒系コムギを父親にもつことも実証された。このような多年にわたる研究によって得られた、コムギの起源と分化に関する多くの独創的かつ先駆的な業績は、国の内外で高く評価されている。即ち、国内では、日本農学賞（1978年）、遺伝学会本原賞（1992年）、紫綬褒章（1995年）が授与され、国際的には日本人としてはじめてアメリカ農学会名誉会員に推薦され（1990年）、さらに、米国科学アカデミー外国人会員にも選出されている（1996年）。

（大学院農学研究科）

紹介

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

本年3月15日に竣工・創設記念式典を開催し、学内外に開かれた全学の教育・研究施設として本格的な活動を始めた「京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（KU-VBL）」の概要を簡単に紹介したい。（式典の様子は京大広報512号に掲載）

最近、大学には知的創造・発信の場、将来の科学

技術立国を先導する独創性豊かな人材の育成の場として、また昨今の日本経済の閉塞感を打破するものとして、これまでにない大きな期待が寄せられている。本施設は、こうした社会的要請を背景に、平成7年度の補正予算「科学技術・情報通信振興特別対策費」の中の新規産業創出につながる研究推進策と

しての「大学院を中心とした独創的研究開発推進経費」(VBL設立構想)により設立されたもので、その趣旨は

- 1) 将来の産業を支える基盤技術である研究開発プログラムの推進
- 2) ベンチャー精神に富んだ創造的人材の育成
- 3) 専用の教育研究施設設備を整備

というものである。京都大学としては、全学的な検討を経て、「先進電子材料開発のための原子・分子アプローチ」を教育研究テーマに、工学研究科の電気系・化学系を主体に、理学研究科・化学研究所等の多数の教官からなる横断的で柔軟な組織でこのプロジェクトを推進している。

今回竣工したVBL棟(地下1階・地上3階、延べ面積2,000m²;写真-1参照)は本部構内の北東部に位置しており、国立大学の研究棟としては最初の免震構造を採用していることから建築学の面からも注目を集めている。(棟内外に振動計が多数設置されており、免震効果の実証・観測も行っている。)一方、VBL棟内に有機MBE装置(写真-2)、in-situプラズマ・表面診断装置、ナノ構造試料作製・表面/光物性評価・薄膜構造解析装置、in-situ SPM装置、原子レベル構造観察、集積機能設計/シミュレーションシステム等の各種大型特別設備を設置するとともに、これまでの国立大学の建物には余り無かったようなリフレッシュコーナーやラウンジ(写真-3)が配置され、相互交流・憩いの場も提供している。

VBLの管理・運営組織は、全学の共同教育・研究施設としての位置づけから、図-1に示すように、総長を議長とする協議会には学内各研究科長等の他、関西を中心として、学外の学識経験者、経済界、ベンチャー企業・電気系企業のトップの方々に入ってもらい、京大VBLの運営に対して外部評価とともに種々のご提案・ご協力を頂くことになっている。その下部組織として、施設長を委員長とする運営委員会を置き、実務は若手教官を主力メンバーとする運営小委員会(ワーキンググループ)が担当し、さらに、院生・PDのみからなる自主企画・行動委員会も形成されている。

このように、VBLはこれまでになくオープンな研究組織であり、学内はもとより、海外研究機関、他

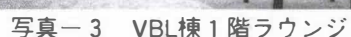
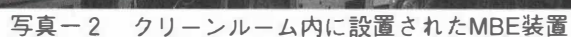
大学VBLとの連携、企業・官研究所(研究者)との共同研究を推進するとともに、特色ある院生教育を行うことにより起業家マインドを持った若手研究者の育成を目的としている。研究面でも、独創的研究を展開する中で、新産業、ベンチャー・ビジネスの創出に繋がるシーズを提供する計画である。

ただこうした成果を実際にベンチャー・ビジネスに繋げるには、知的所有権・資金等々の検討・解決すべき問題も多く、今後大学内および大学と企業等の連携研究成果に対する特許等の事務・運用を行う新たなシステムの構築が必要と思われる。既に文部省や通産省を中心にこうした課題に対して新規立法の動きもあり、この数年で大きく改善される事が期待される。また、本VBL施設は補正予算による施策であることから、その管理・運営には実務上の問題も多々あり、関係各位には種々ご配慮を頂いている。

本年度は、新産業創出に繋がるような独創的研究の推進のほか、定例セミナー及びミキサーを毎週月曜夕方に開催するほか、各種講演会・研究会、特許・創業講習会、院生・若手研究助成等を予定しており、学内外の多くの方に参加して頂く為にも、本VBLの設備、利用法、活動・研究内容や企画に関する情報発信をインターネット(<http://www.vbl.kyoto-u.ac.jp/>)等を利用して積極的に行うとともに、学内外の諸氏からも忌憚のないご意見・斬新なご提案を受け、真に創造的な人材の育成、そして画期的な研究成果・実績が得られるように本VBL関係者一同努力したいと考えている。



写真-1 VBL棟の外観



京都大学

総長 協議会

教育研究目的
管理運営
自己点検・評価

(事務局庶務部
研究協力課)

施設長 運営委員会

教育研究の円滑な実施

(工学部等
事務部総務課)

VBL事務局 運営委員会
運営小委員会

実務全般
プロジェクトの企画
建物・装置等の管理
事業・行事・広報

施設長・若手教官・院生

(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)

随想

黒潮と係わりがあった江戸時代の京都人

退官後、黒潮認知史について調べているうちに、大洋から隔たった江戸時代の京都に、生まれたり住んだりした人々が、意外と多く黒潮と係わりをもっていたことが分かった。



①田中勝介〔生没年不詳〕。
慶長15（1610）年ノビスパン

（現メキシコ）に赴いた京都の貿易商。彼が乗った船は浦賀を出て、当時のスペイン船と同様、北緯40度以北の偏西風域を航海したことから、彼は黒潮統流（関東地方東方で日本から離れて東流する黒潮の延長）を通過して帰還した最初の日本人と見なされる。しかし、当時の諸文献には「黒潮」の呼称はおろか、帯状海流の記録も見つからず、大洋中の海流認知の技術もなく、これは無意識通過であったと思われる。

②森幸安〔元禄5（1692）年頃生—没年不詳〕。京都高辻京極に生まれ、摂州西成郡に住んでいた地図製作者。1752年成『日本志東海部伊豆国属嶋地図』の八丈島と御蔵島の間に、次の注記文を付している。

八丈へ渡海之間黒瀬川此ノ海中ニ在リ幅二十町許片瀬。富士川之如キ急流甚タ難所。但シ冬春ノ間ニ在リ夏秋ハ無ク一面ノ大海也。

「黒瀬川」は八丈島北方の黒潮を指し、これまで調べた史料のうちで、この呼称は本図において初記載である。ただ、流幅や季節変動の記載内容は正しくない。なお「クロシホ」の初記載は、長久保赤水の日本図（1775年成）中、やはり八丈島北方に見られる。

③平沢元愷〔享保18（1733）年—寛政3（1791）年〕。宇治の製茶業の家に生まれた漢学者。京都で医学を修め大阪で開業。1774/5年成『瓊浦偶筆』（漢文体の長崎旅行記）で『海国聞見録』（陳倫炯、1744）中の「尾閭」の記載文を、次のように引用している。

日本の琉球より東にいけば水は皆東流している。『莊子』が尾閭之を洩らし、何時已むかを知らないが、虚しくなることはないと言ふものだ。

名誉教授 川合英夫

中国科学技術史研究家、故ニーダムさんは、中国では「尾閭」が古代からの黒潮の異称であったという説を唱えた。確かに上記の陳倫炯（1744）は、「尾閭」を東シナ海の東流（正保・元禄琉球国絵図などでも「黒潮」の呼称は用いられていない）と解釈しているが、『莊子』（290BC頃成）その他の古典を調べてみても、古代の「尾閭」と黒潮との関連は見いだせない。

④橘南谿〔宝暦3（1753）年—文化2（1805）年〕。本名宮川春暉。伊勢生まれの医師で、伏見に住んだことがあった。医学修行のため諸国漫遊した際に得た奇事異聞を書きとどめた『西遊記』の続編（1798刊）で、黒潮について次のように述べている。

……日本近辺にても、伊豆の沖百三四十里南へ出でて無人島へわたる海に、黒潮という所ありて、数十里が間大河のごとくだ一筋水逆巻きて流るる所有りとなり。……

〔川合英夫『黒潮遭遇と認知の歴史』京大学術出版会、1997〕

黒潮から遠く離れた京都の人たちが、何故これほどまでに黒潮と係わりがあったのか不思議な気もする。昔から京都は情報網の結節点にあったためか？ また、旅行好きで、知的好奇心に富み、僻地情報に興味を抱いた人々が京都近辺によく住んだためか？

京阪近辺でこれら先人が住んでいた場所が分かれば、現地へ赴いて先人の事績を偲んでみたいので、歴史地理的な関連情報をお持ちであれば是非お教え願いたい。また本紙面を借りて、図書の探索・閲覧・借用などでお世話になった本学附属図書館・諸部局図書館図書室に、お礼を述べるとともに、今後の援助もお願いしておきたい。

（かわい ひでお 元農学部教授 平成3年退官
専門は水産海洋物理学、黒潮認知史）

洛書

眼が疲れませんか？

伊 原 康 隆

最近、大学構内から「出会い」や「対話」が減っていると感じ、心配しているのは私だけでしょうか。我々がコンピュータの画面と睨めっこする時間が増えるのに反比例して…。たしかに「よい出会い」は確率が低いし、直接の「対話」は心を傷つけられる怖れもある、一方、発達した情報検索および伝達手段をうまく利用すれば以前とは異なる「効率のよい出会い」や感情的要素を伴わない「対話」を得ることが出来る。その為なのでしょう。しかし私にはこれは大変危なく思われます。情報検索手段に頼ることは、裏を返せば、予期できない可能性の「切捨て」に徹することにつながり、電子メール通信に頼れば、素朴な感情表現の交換という人間の生命に欠かせないものが消えてゆくように思えるからです。

大学構内の食堂、喫茶店などで分野、世代または人種の異なる研究者や学生などと偶然同席し会話がはずみ、それぞれ何らかの刺激を受ける、という機会がもっとあってよいと思います。たとえ週一度でも。こういう出会いや対話は、私にとってはそれ自体が楽しいことですが、そうでなくても、こうした中から何年かに一度その人にとって非常に重要な出会いに恵まれる、という話はよく耳にするところです。また図書館などで、たまたま目に入った「他の本」に惹かれてそれが後に役に立つこともあるでしょう。

一方、当面の目的に必要な情報に対象をしばって四角い画面と睨めっこすれば、一時的能率は確かによい。キーワードに係わるものに関する限り、地球規模での情報が得られるし、又わが図書館に足を運ばなくても「アナタノ求メル本ハ、アリマセン」とわかってしまう。しかしこの方法で失われる目にみえないものは何か？ 思いがけない出会いという天の恵みを受ける機会を減らし、又たとえ出会ってもそれと気付かなくなったり、或いは開かれた心と豊かな感性で様々なものから新鮮な驚きを感じとる事が難しくならないだろうか？ つまり我々の生命の源、文化の源そのものを枯らしてしまいはしないか！

私には、やはり、色々なことを面白いと感じ、その中から選択してゆくのの基本だと思えるのですが、早めに選択して能率をあげる、という考え方が受験勉強とコンピュータ依存によって強化されつつあるようで、怖ろしく思えてなりません。この考えの場合、次の選択の段階では一体何を基準に選択することになるのでしょうか。コンピュータからの情報とその処理で培われた感性が基準になるのでしょうか？

(いはら やすたか 数理解析研究所教授)

資料

平成9年度入学試験諸統計

1. 募集人員、志願者数、合格者数、入学者数、合格者最高点・最低点（総点）等調

学部・日程		募集人員	志願者数	第1段階 選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満点	総点	
									最高点	最低点
総合 人間学部	前期 文系	55人	274人	269人	267人	55人	130人	800点	571.25点	483.58点
	前期 理系	55	269	261	256	56		800	597.25	467
	後期	20	420	327	198	20		800	674.33	559.66
文学部	前期	190	651	651	646	193	224	700	523.41	429.33
	後期	30	467	301	138	31		700	576.25	503.25
教育学部	前期	40	194	192	189	43	63	800	581.58	516.41
	後期	20	159	159	120	20		900	673.91	598.91
法学部	前期	340	982	981	963	345	390	750	576.75	466.75
	後期	40	624	500	236	46		500	415.25	377.25
経済学部	前期 一般	160	518	518	509	163	234	800	587.5	486.75
	前期 論文	50	311	250	247	50		1,050	705.75	532.25
	後期	20	466	382	210	27		950	645.45	553.85
理学部	前期	294	1,035	1,013	994	294	326	650	554	344
	後期	32	1,153	1,135	754	32		400	305	248
医学部	前期	90	459	457	442	93	103	1,250	1,111	885.5
	後期	10	308	174	96	11		1,400	1,168.5	1,093.25
薬学部	前期	70	190	190	183	73	84	950	692.75	565.83
	後期	10	156	154	74	11		950	687.08	616.2
工学部	前期	940	2,470	2,462	2,446	941	1,050	1,000	848.33	588.33
	後期	110	1,415	1,409	738	113		1,100	891	738.75
農学部	前期	252	764	762	753	259	321	1,050	740.08	600.33
	後期	63	829	828	517	63		810	610.13	502.2
小計	前期	2,536	8,117	8,006	7,895	2,565				
	後期	355	5,997	5,369	3,081	374				
合計		2,891	14,114	13,375	10,976	2,939	2,925			

（備考）1）合格者数には追加合格者を含む。

2）前期は3月8日、後期は3月22日の合格発表時のものである。

3）法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。

4）合格者最低点について、同点者複数の場合には、学内選考規定により優先順位を付し合格者を決定する。
従って、同一得点であっても合否の異なる場合がある。

〔外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

学部	募集人員	志願者数	第1次 選考 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法学部	20人以内	60人	43人	30人	16人	16人
経済学部	10人以内	25	18	15	10	10

〈工学部・農学部学科別内訳〉

学部（学科）・日程		募集人員	志願者数	第1段階 選合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満点	総点 最 高 点 最 低 点	
工 学 部	前 期	940人	2,470人	2,462人	2,446人	941人	1,050人	1,000点	848.33点	588.33点
	後 期	110	1,415	1,409	738	113		1,100	891	738.75
地 球 工 学 科	前	188	569	566		188	210		759.5	597.83
	後	22	342	340		22			890.75	756.5
建 築 学 科	前	85	193	192		85	95		788.83	616.25
	後	10	112	112		10			827.25	738.75
物 理 工 学 科	前	232	587	586		232	260		848.33	629.83
	後	28	370	368		29			864.25	777.5
電 気 電 子 工 学 科	前	126	332	331		126	140		831.16	623.75
	後	14	172	172		14			833	755.5
情 報 学 科	前	90	217	216		90	101		806.91	628.08
	後	11	136	135		11			891	750.5
工 業 化 学 科	前	219	572	571		220	244		775.66	588.33
	後	25	283	282		27			858.75	739
農 学 部	前 期	252	764	762	753	259	321	1,050	740.08	600.33
	後 期	63	829	828	517	63		810	610.13	502.2
生 物 生 産 学 科		104	(合格者数) 106 (前期 85名 後期 21名)				105			
生 物 機 能 学 科		125	128 (前期 103名 後期 25名)				128			
生 物 環 境 学 科		86	88 (前期 71名 後期 17名)				88			

2. 志願者・入学者 出身高校所在都道府県別調

上段……志願者数

下段……入学者数

学部 都道府県	総合 人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	計
北海道	23 5	8 1	8 1	19 5	13 3	52 8	4 1	7 1	43 11	13 3	190 39
青森	2 1	4 1			3 3	10 3	3 3		7 2	6 2	35 6
岩手	2			2	2	3			1 1	2	12 1
宮城	5	5	1	8 2	7 1	11 1	1		12 2	2	52 5
秋田	3	3 1		3	1	8 1	2		6 3	1	27 5
山形	1	2	3 2	3 1	1	12 2		1 1	4 1	1	28 7
福島	8 2	8 2	4 2	10 4	5 1	16 6	6		12 2	3 1	72 12
茨城	18 1	9 2	1	9 2	13 3	41 9	4 2	5 2	36 6	16 4	152 29
栃木	10 2	14 3	2 1	6 1	4 2	10 3	5	3 1	12 3	6 2	72 18
群馬	7	5 1	4	18 5	9 2	17 1	9 1	1	22 3	16 3	108 16
埼玉	12	18 2	2	16 1	35 4	87 7	7	2	57 6	24 6	260 26
千葉	41 3	33 3	8	17 2	18 1	81 3	6	10	57 11	42 6	313 29
東京	105 14	95 12	20 4	85 12	124 16	227 21	69 13	19 5	159 36	95 8	998 141
神奈川	48 4	46 5	8 2	40 1	40 8	113 7	22 1	7 1	100 19	62 16	486 64
新潟	8 3	10 3	3	10 2	9 4	25 4	7 2		19 6	12 2	103 26
富山	4	3 1	2 1	3	3 1	17 1	1 1	2 1	13 4	2	50 10
石川	4	19 4	2 1	14 4	13 5	23 6	4	2 1	31 8	13	125 29
福井	13 2	18 6	6 2	11 1	14 3	14 2	3	6 1	30 13	8 1	123 31
山梨	6 1	4		2	3 1	9 1	3		6 1	4	37 4
長野	12 1	23 3	5	18 3	12 5	19 4	4 3	3 1	26 4	11 2	133 19
岐阜	8 2	16 25	5 4	26 6	12 1	21 3	10 1	4 2	50 16	19 4	171 39
静岡	21 6	25 3	5 2	25 4	16 4	55 10	18 3	3	55 15	43 15	266 59
愛知	64 7	72 13	19 4	96 19	70 16	127 28	31 2	18 4	249 80	69 15	815 188
三重	11 1	6	11 3	32 6	25 3	38 11	8 3	6 2	61 19	6 1	204 49
滋賀	29 6	33 6	10 1	30 6	15 4	24 1	3 2	17 2	97 25	40 6	298 57
京都	54 8	113 24	32 5	191 49	156 28	109 12	101 13	41 9	532 129	207 32	1,536 309
大阪	115 8	163 36	62 11	328 94	242 39	301 45	110 12	74 14	825 225	340 72	2,560 556
兵庫	76 18	100 23	51 8	191 57	134 33	159 34	128 22	29 12	429 127	157 38	1,454 372
奈良	32 7	68 19	12 1	101 28	91 20	97 18	39 13	15 4	303 91	94 21	852 222
和歌山	15 2	19 2	4	14 7	15 3	36 6	17 2	7 1	67 20	31 8	225 51
鳥取	4	3 2	4 1	15 5	7 1	12 1	3	3 1	21 6	8 3	80 20
島根	6 1	6 3	3 1	13 4	3 1	5	4	3 2	10 4	12 5	65 22
岡山	16 1	17 4	6 1	24 6	21 2	21 4	8	9 2	66 22	35 6	223 48
広島	17 3	10 3	5 2	52 13	27 2	67 15	17 2	8 3	85 21	29 9	317 73
山口	11 3	13 4	2	15 2	7 2	21 4	4 1	1 1	30 15	9 2	113 34
徳島	6 2	2 1	3	3 2	6 2	8 2	4 1	1 2	15 4	16 3	64 17
香川	14 2	25 7	9 1	18 5	22 7	26 4	10 1	2	50 13	9 3	185 43
愛媛	13 2	11 3	4 1	17 5	20 3	21 4	20 4	6 2	43 15	16 4	171 43
高知	5 1	8 1		1	5	16 1	5	3 1	13 3	14 3	70 10
福岡	44 5	36 11	6 2	33 6	23 6	74 16	15 3	6 1	97 23	36 7	370 80
佐賀	9 2	4 1	2	15 4	3 5	17 5		4 1	21 1	6 1	81 14
長崎	10 3	6 1	2 1	5 2	4 2	15 2	2 1	6 4	16 5	10 1	76 20
熊本	5	4		10 3	8 1	10 7	7	2	19 5	7 1	72 10
大分	4	2		4 2	6 1	17 3	5	2 1	11 5	6 1	57 13
宮崎	7	3	1	8 2	2	12 4	1	3	13 6	5 1	55 13
鹿児島	23 1	14 3	5	17 3	12 1	43 5	21 3	1	40 11	18 4	194 31
沖縄	4 1	2		7 1	1	6 1	2		5 1	5 1	32 4
検定	7	10 2	11 2	19 2	13 1	34	14	4	6 2	7 1	125 10
その他	1			2 1		1			3		7 1
合計	963 130	1,118 224	353 63	1,606 390	1,295 234	2,188 326	767 103	346 84	3,885 1,050	1,593 321	14,114 2,925

(備考) 1) 高等専門学校出身者は、高等専門学校の所在都道府県に含む。

2) 外国学校出身者のための選考を除く。

3. 志願者・入学者 入学資格取得年別調

検…入学資格検定合格者，専…高等専門学校出身者，他…高校，高専，検定以外の者

学 部	志 願 者						入 学 者					
	総 数	現 役 9.3 卒	浪 8.3 卒	7.3 卒	6.3 卒	5.3 以前卒	総 数	現 役 9.3 卒	浪 8.3 卒	7.3 卒	6.3 卒	5.3 以前卒
総合人間 学 部	963	575	271	55	27	35	130	70	50	4	2	4
	検 7	検 1	検 1	検 3	検 2							
	他 1	他 1										
文 学 部	1,118	724	313	54	9	18	224	147	66	8	1	2
	検 10	検 6	検 3		検 1		検 2	検 1	検 1			
		59.7%		40.3%				53.8%		46.2%		
教育学部	353	230	97	12	3	11	63	38	23	1		1
	検 11	検 3	検 4	検 2		検 2	検 2		検 1	検 1		
		65.2%		34.8%				60.3%		39.7%		
法 学 部	1,606	1,104	383	69	8	42	390	258	117	13		2
	検 19	検 2	検 6	検 2		検 9	検 2	検 1				検 1
	他 2	他 2					他 1	他 1				
経済学部	1,295	622	450	155	23	45	234	108	99	22	2	3
	検 14	検 5	検 1	検 1	検 2	検 5	検 1					検 1
		48.0%		52.0%				46.2%		53.8%		
理 学 部	2,188	1,094	637	201	70	186	326	189	114	17	4	2
	検 34	検 11	検 6	検 2	検 8	検 7						
	専 1		他 1			専 1						
医 学 部	767	329	146	57	35	200	103	53	35	7		8
	検 14	検 3	検 3	検 5	検 2	検 1						
		42.9%		57.1%				51.5%		48.5%		
薬 学 部	346	195	105	17	6	23	84	49	34	1		
	検 4					検 4						
		56.4%		43.6%				58.3%		41.7%		
工 学 部	3,885	2,218	1,375	184	44	64	1,050	572	449	25	2	2
	検 6	検 1	検 2	検 1	検 1	検 1	検 2		検 2			
	他 3	他 3										
農 学 部	1,593	825	525	132	50	61	321	173	122	21	1	4
	検 7	検 1		検 4		検 2	検 1					検 1
		51.8%		48.2%				53.9%		46.1%		
合 計	14,114	7,916	4,302	936	275	685	2,925	1,657	1,109	119	12	28
	検 126	検 33	検 26	検 20	検 16	検 31	検 10	検 2	検 4	検 1		検 3
	専 1					専 1	他 1	他 1				
	他 7	他 6	他 1									
		56.1%		43.9%				56.6%		43.4%		

〔外国学校出身者のための選考にかかる入学資格取得年別調〕

学 部	志 願 者						入 学 者					
	総 数	現 役 9.3 卒	浪 8.3 卒	7.3 卒	6.3 卒	5.3 以前卒	総 数	現 役 9.3 卒	浪 8.3 卒	7.3 卒	6.3 卒	5.3 以前卒
法 学 部	60	53	7				16	16				
	他 60	他 53	他 7				他 16	他 16				
		88.3%		11.7%				100.0%				
経済学部	25	25					10	10				
	他 25	他 25					他 10	他 10				
		100.0%						100.0%				

公開講座

平成 9 年度工学部公開講座 新素材—未来をひらく新しい工業材料—

工学部では、来る 6 月 7 日、14 日、21 日の各土曜日に、広く一般市民を対象とする「京都大学工学部公開講座」を、下記のとおり開催します。

記

6 月 7 日 (土)	暮らしの中の鉄筋コンクリート	藤井 學 教授
	—建物・橋・新素材—	
6 月 14 日 (土)	快適な生活を支える高分子新素材	澤本 光男 教授
	イオンビームが操る新材料の世界	山田 公 教授
6 月 21 日 (土)	マルチメディア社会をひらく	
	光エレクトロニクス材料	藤田 静雄 助教授
	マイクロマシンとマイクロ材料	駒井謙治郎 教授
	加工技術を大きく変革する超塑性材料	牧 正志 教授

- ◆時 間 午後 1 時 30 分～ 5 時
- ◆会 場 京都市左京区吉田本町
京都大学工学部電気総合館
(※自家用車での来場はご遠慮下さい。)
- ◆定 員 160 名
- ◆受講料 6,400 円 (テキスト代を含め全講義を通しての受講料で消費税を含みます。)
- ◆申込方法 現金書留または受講料直接持参によりお申し込み下さい。
現金書留の場合は以下のものを同封して下さい。
 - 1 受講料
 - 2 住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入した用紙 (複数の人数の申し込みの場合は 1 人 1 枚必要。)
 - 3 返信用封筒 (表側に宛名、郵便番号を記入し、80 円切手を貼って下さい。受講証、領収証、会場案内図等をお送りします。)
- ◆申込期間 5 月 12 日 (月)～ 5 月 30 日 (金)
(※現金書留は必着)
- ◆持参の場合の受付期間 平日午前 10 時～午後 3 時
(※午後 0 時～ 1 時を除く)
- ◆テキストは公開講座会場の受付でお渡しします。

問い合わせ及び申込先 〒606-01 京都市左京区吉田本町
京都大学工学部等総務課庶務掛 公開講座係
☎ 075(753)5000, 5005 (工学部 8 号館 1 階西側)
FAX 075(753)5065

お知らせ

医学部附属病院でボランティア募集中

本病院では患者さん本位の病院とすべく、職員一同、日夜頑張っていますが、よりきめ細かい患者サービスをめざしてボランティアを受け入れています。

一般市民の方々にボランティアの呼かけをしておりますが、本学職員・学生の皆様の参加を心からお待ちしております。

本病院は地域の医療拠点としてだけでなく特定機能病院として高度の先進医療を提供しています。皆様のご支援をお願いします。

ボランティアの資格、活動の内容及び申し込み方法等は右のとおりです。

(医学部附属病院)

○資格は特に必要ありませんが、コーディネータによるオリエンテーションを受けていただきます。

○活動内容

- ・ 外来患者の院内案内
- ・ 車椅子患者の介助
- ・ 構内環境整備（除草、清掃）等

○活動に必要な衣服、ボランティアの控室等を用意しています。

○申し込み・問い合わせ先

医学部附属病院総務課庶務掛

☎075-751-3005